

# 問題



この漫画のタイトルは1〜5のうちどれだと思いますか？

○ 印を付けて下さい

1. 人生夢の如し

2. 死人に口なし

3. 死んで花美が咲くものか

4. 人生意気に感ず

5. 進退谷まる

1. 臍が茶を沸かす

2. 小娘と茶袋

3. 小人閑居して不善をなす

4. 成らぬ堪忍するが堪忍

5. お茶を濁す



# とくせんは徳が善の仏



## しょうじん かんきよ 小人閑居して不善をなす



小人とは私のような人間のことである。背が低くて体重が軽い体の小さな人という意味ではなく、器量も徳もない、つまらない、と

るに足りない人間のことである。とるに足りないつまらない人間が暇をもてあまして碌なことをしない「ヒマロク」のこ

とを、小人閑居して不善をなすという。逆は、人徳がある立派な人は忙しくて悪いことをする時間がない。これを「トクセン(徳のある人は善をなす)」という。広辞苑を引いても、この言葉はまだのっていないが。

トクセンの代表選手は、袴にブーツ、懷に拳銃を入れて幕末を駆け抜けた、あの坂本龍馬であろう。

薩長連合・大政奉還を画策し、維新回転を成功に導いた彼の残した言葉に「世に生を得るは、事を為すにある」がある。

人間はそれぞれ役割をもって生まれてきているもんだと、この偉大なる土佐の志士はおっしゃって、それを実行したのは、存知のとおり。まさに、小人閑居して不善をなすの正反対である。

一方、小人(凡人)はヒマロクにはなりやすい、特に若いうちは。やるべきがないと「何か面白いことはねーか、面白いことは」と体をもて余す。若さはあっても力がない。

面白いことをするには先立つものが要る。で、先立つものを手に入れるために不善をなすことを顧みないで為す。

やがて悪の道に落ちていくのを「小人落とし」という。広辞苑にはまだのっていないが。

# とくせんは徳が善の仏

# とわか笑の仏



## 進退谷まる

十二人の怒れる男



人間は動きがとれなくなると、二進も三進もいかなくなると、進退谷まると、どうするか。自滅するか、賭に出るしかない。

進退谷まった(谷底に落ちた状況になった)時こそ、その人の人間性が現れるもんなんだよと、死んだおばあちゃんがよく言っていた

つけ。

ご存知のとおりアメリカの裁判は陪審員制度である。十二人の陪審員全員が有罪と認めれば、被告の少年は第一級殺人犯として死刑が執行される。

裁決は、十二人の陪審員のうち十一人が少年の有罪に手を挙げた。

「一人の人間の生命のかかった裁決をそう簡単に決めていいのか」と、無罪を主張した、たった一人は「ヘソ曲がりはどこにもいるもんだ」「百年話し合ってもオレの考えは変わらないよ」「たった一人のひねくれ者のために時間をムダにするのか」「お前が張本人なんだぞ」「何とかしろ」と迫られ、進退谷まって賭けに出る。

「もう一度裁決してください。私を除いた十一人で。その結果、全員が有罪なら私はそれに従います。でも一人でも無罪が出たら話し合いを続けましょう。それが私の条件です」

結果、無罪票が一人出る。話し合いが続けられていくうちに法廷では気が付かなかった有罪への疑問が次々と出てくる。

やがて十二人は全員、少年は無罪だという結論に達する映画「十二人の怒れる男」は、私の忘れたい青春時代のおばあちゃんと一緒に観た一本だった。

# とわか笑の仏